

愛知県2例目のヌマカイメン記録

松岡敬二*

The second record of freshwater sponge, *Spongilla lacustris* in Aichi Prefecture, Japan

Keiji Matsuoka*

はじめに

北半球に広く分布するヌマカイメン *Spongilla lacustris* は、主分布域が北に偏り、日本列島では本州、四国、九州の生息地が少ない。愛知県では、安城市川島町の矢作川が唯一の生息地であった（松岡・益田、2008）。

2013年の夏の渇水により、貯水率が25%となった三河湖湖岸から採集された淡水海綿は、ヌマカイメンに同定できたので、県内2例目の生息地として報告する。

淡水海綿の資料と採集地の情報を提供していただいた愛知県環境調査センター水圏部の吉田恭司氏に御礼申し上げる。

採集場所



第1図．水位が回復したヌマカイメンの採集場所。2013年10月27日撮影（貯水率約72%）。

三河湖は、豊田市羽布町鬼の平の矢作川支流の巴川上流に、1963年に灌漑用の貯水を目的として完成した羽布ダムによりできた人造湖である。採集場所は、羽布ダム堰堤北側角近くで、羽布ダム管理事務所南西の水位の下がった湖岸である（第1図）。採集された数日後、8月26日の三河湖の水質は、水温26.2℃、pH 6.5、電気伝導率5.1 mS/m、DO 4.9 mg/L、COD 4.4 mg/L、SS 4 mg/L、クロロフィル a 20 mg/m³であった。

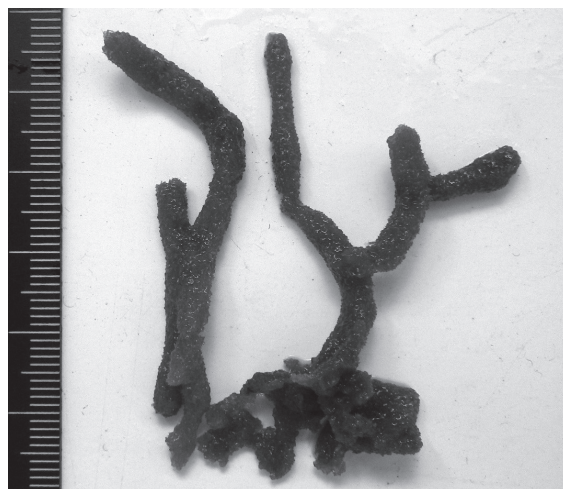
淡水海綿の標本

タンスイカイメン科 Family Spongillidae

ヌマカイメン属 Genus *Spongilla* Lamarck

ヌマカイメン *Spongilla lacustris* (Linnaeus, 1758)

（第2図、第3図A、B）



第2図．採集時のヌマカイメン。

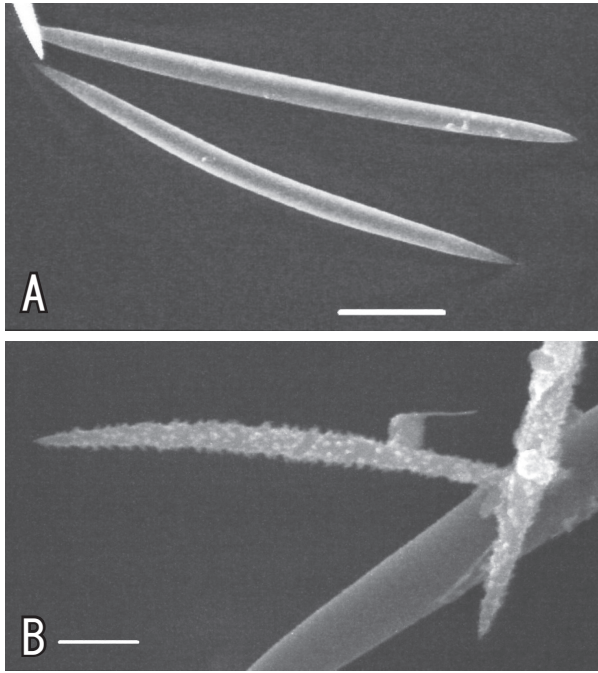
* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan.

原稿受付 2013年11月12日. Manuscript received Nov. 12, 2013.

原稿受理 2013年11月20日. Manuscript accepted Nov. 20, 2013.

キーワード: ヌマカイメン, 淡水海綿, 三河湖, 愛知県.

Key words : *Spongilla lacustris*, freshwater sponge, Mikawa-ko, Aichi Prefecture.



第3図. ヌマカイメンの骨格骨片 (A) と遊離小骨片 (B).
A 骨格骨片 (スケール: 50 μm) ; B 遊離小骨片 (スケール: 10 μm).

海綿体は湖岸斜面の底質に付着し、樹枝状に成長している。海綿の幅は 3 mm 程度である。表面は細かな凹凸があり、共生している緑藻により緑色をしている。芽球は形成されていない。

海綿体の骨片は、骨格骨片、遊離小骨片からなっている。骨格骨片は、両端のとがったやや湾曲した両錐型で、表面は平滑である。骨格骨片の長さは、252.2 ~ 295.8 μm 、太さは 12.5 ~ 16.5 μm である。遊離小骨片は棘のある湾曲した両錐型である。遊離小骨片の長さは、50.0 ~ 74.7 μm 、太さは 2.6 ~ 4.3 μm である。

採集者：羽布ダム管理事務所職員。

標 本：豊橋市自然史博物館へ保管 (TMNH-IV-17, 18)。

引用文献

松岡敬二・益田芳樹, 2008. 愛知県新発見のヌマカイメン. 豊橋市自然史博物館研報, (18): 21-23.